

地方都市視察報告書

文化観光産業特別委員会

- 1 実施日
令和4年7月21日（木）

- 2 視察地 岐阜県美濃市
【市の概要】

- (1) 面積 117.01km²
(2) 人口・世帯数
(令和4年7月1日現在)
人口 19,659人
世帯数 8,178世帯



- (3) 美濃市は、日本の中央に位置し、天下の名川長良川や緑濃い山々など豊かな自然に恵まれ、1300年の伝統を誇る「美濃和紙」や江戸時代に築かれ中心市街地に多く残る伝統的な建造物の歴史的景観などの伝統文化が息づくまちである。これらの歴史・文化の活用や、都市・生活基盤の整備を進めるとともに、健康寿命の延伸や子育て支援などにも積極的に取り組むことで、将来に希望を持ち、自己の夢の実現に向けて挑戦することができる、『一人ひとりが挑戦 夢かなえるまち』を目指し、未来志向のまちづくりを推進している。

同市内の美濃和紙の里会館や、江戸時代から明治・大正時代の歴史的建造物が建ち並ぶ「うだつの上がる町並み（国重要伝統的建造物群保存地区）」などには、年間を通じて多くの観光客が訪れている。また、毎年開催される美濃和紙あかりアート展は、「美濃和紙」と「うだつの上がる町並み」のコラボレーションとして、数多くの独創的なあかりの作品が展示され、幻想的な世界が醸し出される。

一方、東海北陸自動車道と東海環状自動車道の結節点として、市の玄関口である美濃インター周辺は、区画整理事業や大型店舗の進出で変貌しつつある。

なお、平成17年（2005年）に行われた関市との合併に関する住民投票の結果、美濃市は単独市制を継続することとなった。

- 3 視察項目・内容

美濃和紙及びうだつの上がる町並みを活用した文化・観光・産業振興施策について

- 4 視察参加者

【委員】

鈴木 ひろみ委員長、 おぐら 利彦副委員長、 木もとひろゆき委員、
藤原 たけき委員、 渡辺みちたか委員、 志田 雄一郎委員、
あざみ 民栄委員、 中村しんいち委員、 雨宮 武彦委員

【随行】

議会事務局議事係 大場 裕介、設楽 拓也

5 視察結果・所感

美濃市においては、美濃和紙の伝承、町並みの保存及び観光・産業施策について、産業振興部美濃和紙推進課の職員から説明を受け質疑を行った後、うだつの上がる町並みへ移動し現地の視察を行った。

美濃市は、1300年続く美濃和紙と江戸時代から残るうだつの上がる町並みを、コラボレーションとして美濃和紙あかりアート展を行う等して、活用することにより観光・産業の推進にも寄与する取組を行っている。美濃和紙の手すき和紙技術の保存・継承については、後継者育成に積極的に取り組んでおり、平成6年から実施する後継者育成奨励金制度は、月額5万円の奨励金を、17人に交付した実績がある。

美濃和紙産業の振興については、ユネスコ和紙ブランド推進連携事業としての細川紙・石州紙和紙産業界との連携や、紙の文化交流としての海外都市との協定締結により積極的に活性化を図っている。さらに、これまで新宿区のモア4番街や台東区の上野公園においても美濃和紙あかりアート展を開催したほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の表彰状に手すき和紙が使われるなど、様々な事業をとおして美濃和紙ブランドの発信を行っていることが印象的であった。また、岐阜県、美濃市及び美濃和紙ブランド協同組合で構成する美濃和紙ブランド価値向上研究会が、品質の認定基準及び基準を満たすことを表示する3つのブランドマークを設定し、ブランド価値向上を図っている。その一方で、行政主体の取組だけでなく、当事者である和紙産業の方たちの意欲、アイデア・考えをサポートし醸成していくことについて、行政がいかに施策として反映するかが今後の課題でもある。

新宿区においても、地場産業である染色業や印刷・製本関連業と文化、観光、産業をコラボレーションさせながら、民間の知恵もお借りし、御提案をいただきながら、様々な形でアピールしていくことがとても重要であると再認識した。

6 主な質疑項目

- (1) 美濃和紙を活用した新商品開発について
- (2) 手すき和紙技術の保存・継承について
- (3) 後継者育成奨励制度による後継者の育成について
- (4) 観光客の増加を目的とした、関市や郡上市など隣接自治体との連携について
- (5) 美濃和紙産業の振興施策について
- (6) 美濃和紙あかりアートの展示について

7 その他

【共同視察者】

文化観光産業部文化観光課長 村上 喜孝
文化観光産業部産業振興課長 市田 亮



写真：美濃和紙あかりアート